

Better City, Better Life

戴 蓉

二〇一〇年の上海万博は、二〇

〇八年の北京オリンピックの成功に次ぐ中国の一大国際イベントであった。上海万博は、中国政府の主催で上海市が引き受けるという形態をとっており、その会期の長さ、参加する国や地域の多さ、参加人数の多さ、影響範囲の大きさなど多くの点である意味オリンピックを凌駕した。中国政府は、「科学の発展を推進する重要な機会であり、全国之力、世界の智慧を結集し、精彩ある、記憶に残る万博となるよう成功させよう」と、これが全国的な大イベントであることを繰り返し強調した。また上海政府もここ二年ほど、上海万博の成功を最も重要な事項と位置づけて、万博成功に向け全力を

尽くすよう各界に要求した。

政府は一連の数字を用いて上海万博の重要な意義を次のように指摘した。上海万博により促進される交通・通信・給水等、都市の基本設備および商業設備・旧地区改造等その他付帯領域への投資は、直接投資の五倍から一〇倍になる。また万博では融資・法律・経理およびガイドライン・管理等に高水準の専門的なサービスが要求されるため、内外の各種企業が参画して実施する市場規模は、極めて大きく、魅力的なものである。さらに上海万博を訪れる五千万人のうちの三〇〜三五%はそのまま華東地区へ旅行すると見込まれるが、これは、上海周辺の一〇〇キロ圏内の蘇州・周庄に代表される

江南水郷地帯や一五〇キロ圏内の無錫・蘇州、三〇〇キロ圏内の南京・揚州・鎮江など、国内で最も豊穡な華東六省一市にとって、万博客がそのまま重要な顧客源になるとともに、万博がこの地域に直接的な利益をもたらすことになることを意味する。加えて、上海万博は内需の振興と牽引の重要なチャンスであり、展示・建築材料・創意・旅行サービス・ホテル・文化等の産業に対して一連の経済効果がある、とした。

専門家の分析によれば、上海万博には投資拡大、消費需要、貿易提携および就業創出という四点において直接的な推進作用があり、中国経済における困難の克服を促し、世界が金融危機による停滞からできるだけ早く脱出するための得がたい機会となりうるとし、万博が数年内に生み出す需要の総額を少なくとも三千億元前後と見積もった。

開催決定後、会場となる旧城区の住民の立ち退きや旧城区の改造、上海万博事務協調局の設立と人員の配置、上海万博キャラクターや主題歌、ポスターなどの募集、ボランティアの募集と訓練などが急ピッチで展開された。上海万博に関するニュースや報道、シンポジウム、演出、公共広告とは、中国人、とりわけ上海人にとって日常生活の重要な一部分となった。上海万博は人々の関心を引く重要なイベントであり、中国人には昔から客を喜び、最良な状態で客をもてなすという伝統があることから、上海市はこの機会を利用して、市民に対してモラルやマナーの向上を含む、交通安全や環境保護分野の教育を進め、上海が最良の状態で客人を迎えられるようつとめた。万博予定地である浦東地区では「ゴミのない浦東はさらに美しい」と大々的に宣伝し、「自分のゴミは自分で持ち帰り、

ゴミはゴミ箱へ」等のキャンペーンを積極的に進めた。キャンペーンでは、市民がまず家を出るところから始まり、道路や停留所、車の中においてや、公園で遊ぶ、競技会や文芸講演会を見学する際の公共の場所においてゴミを散らかすなどの良くないマナーの習慣を改め、共同で、清潔かつ快適な社会生活環境を創造するよう市民に呼びかけた。勝手に道路を渡るという悪習については、「マナーは足元から」の活動を展開し、「秩序を守ってより良い生活を」、「規則と制度、礼儀と譲り合いが重要」、「命を大切に、他人を尊重して互いに思いやりを」などの標語を積極的に提唱して、「勝手に道路を横断する、赤信号を突き進む」といったよくみられる違法行為の修正をはかった。

二〇〇〇年の初め、後にノーベル経済学賞を受賞したステイグリッツはこう指摘した。「今、世

界で起こっている二つの事からは、二一世紀の人類社会に深い影響を及ぼすであろう。一つはアメリカを主とするハイテク革命であり、いま一つは中国で起きている都市化運動である」と。インターネットがもたらした科学技術の革命はすでに裏付けられているが、中国の都市化はまさに今、起こりつつある現象である。中国社会科学院が二〇〇九年六月一日に発表した『中国都市発展報告』（都市青書）にはつぎのように報告されている。近年中に、中国の都市は空前の発展をとげ、二〇〇八年末までに都市化率は四五・七％に達し、都市人口は六・〇七億人となり、六五五地域が都市の形態をとって、うち一〇〇万人以上の特大都市が一八地域、超大都市が三九地域になるであろう、と。現在、すでに人口が一千万人超の都市には、北京・上海・重慶・広州・天津がある。専門家の予測で

は、中国には北京・上海といった二大巨大都市があるが、将来的には北京が三億人、上海が二億人となり、この二大都市の人口だけで五億人に達し、総人口の三〇%を占めるに至るといふ。

したがって、万博のテーマを“より良い都市、より良い生活”としたのは、実に強烈な現実的意義がある。これは“Better City, Better Life”と英訳され、「美しく、調和のとれた都市を建設し、生活をより良くしよう」という深い意味を表わしている。そして多くの人が、中国語の“城市、讓生活更美好”より、英語の“Better City, Better Life”の方が上海万博の本来の意味をより正確に反映していると感じた。

“より良い都市、より良い生活”というテーマを伝えるため、万博主催者は、人々が上海万博を通じて、都市の発展が人類社会に数々の利益をもたらし、壮大で美しい

未来世界の生活風景をえがきだすことを理解し、都市化を進めようとする意思を確固たるものにすることを願った。これが、万博主催者が達成したいとした成果の一つである。しかし、都市は本来に生活をより良くするのだろうか。

人類文明の最先端の成果は、ほとんどみな都市に集まっている。人々が都市に対して抱く憧れには、より豊富な物資、より便利な交通、より高い教育など様々なチャンスに対する渴望が含まれている。都市とは、本来、人々が尊厳をたもち、健康で安全な、幸福と希望に満ちた円満な生活をおくることができる場所ではなくてはならない。しかし実際の都市は、様々な困難——混雑や汚染、犯罪、衝突などに直面しており、急速な経済発展をとげる上海においても、それらの問題は確実に存在している。一つは密度の高さという問題である。建物も人も、上海

ではすべてが極度に集中しているため、交通マヒや住宅不足、環境汚染、ヒートアイランド現象など様々なトラブルが発生している。

もう一つは都市住民間の差別の問題である。都市は確かに一部の人の生活を良いものにした。高級車に乗り、豪邸に住む人々は、都市がもたらす可能な限りの快適さを余すところなく享受しており、“より良い都市、より良い生活”とは、そのような人たちにとって心から賛成できるものであろう。しかし、不動産価格の高騰によって住宅が買えず、また競争の過剰な激化のために適当な仕事も見つからないなどという、不安定な生活をする人々にとっては、上海の快適さとはうまい手に入れることができないものである。

万博開催の前、上海の著名な若手作家である韓寒は、万博フォーラム上で“より醜い都市、より苦しい生活”と銘打った講演を行

い、普通の上海人の如何ともしがたい思いを代弁した。本当の大都市は、落ち着いた、楽しい生活を可能にするものであるはずだ。しかし都市、それも上海のような大都市は、発展途上の交通・住宅、戸籍等の問題によつて、かえつて人々の生活に重圧をもたらしている。特に他の地方から来た「新移民」たちは、戸籍の制限や住居費・物価高により、真の都市生活から排除されている、と。

また近年、大学卒業生にとつても上海の戸籍を取つて就業するための条件はどんどん厳しくなっており、少なくとも修士の学歴がないと難しい。上海の戸籍がなければ医療や保険などの福利厚生も受けられず、将来的には子供が上海で就学できなかったり、全国統一考試が受験できなかったりといった問題に直面する。高学歴に加え、突出した職業能力と専門的な素質がなければ、この人であふれ

た、激烈な競争社会である上海に居を構えることはとてもできない。大学生でこれである。まして農村から上海に殺到する大量の農民については、いうまでもない。

中国社会科学学院は、最近発表した資料の中で、農民および農民工にとつて、二〇〇九年における収入に対する住宅価格の比率は、それぞれ二九・四四倍と二一・〇八倍であることを指摘した。このような比率の高さは、戸籍制度以上に困難なハードルとなつて、農民や農民工が新移民になるための大きな妨げとなつている。農民工は、住居や医療保障、子女の教育など多くの面で都市民の待遇を受けることができず、ただ廉価な労働力を提供するにすぎない。これでは真の都市化の実現にはほど遠い。この発表によれば、上海が代表するような大都市住民の考える「Better City, Better Life」には、以下のような条件が備わっていない

てはならない。住宅価格は一般人の収入とかけ離れていてはならない。商業が繁栄していて就業の機会が豊富であり、外出時には各種の手軽で速い交通機関、地下鉄・LRT・公共バスおよび自家用車などを選択することができる。車を手に入れることができるだけでなく、燃料費や維持費をまかなうこともできる。より良い教育や医療福祉、高水準の文化娯楽・レジャーを享受することができる。同時に、上海の古い文化伝統や温かい人情も維持されなくてはならない、などである。

今回の万博で浦東鎮に設置された「世博家園」は、その好例である。 「世博家園」の住民は、浦西の万博エリア建設のために、上海中心部の黄浦区や蘆湾区から移転してきた人々である。多くが古い路地の住民であるため、政府はまず彼らに旧宅を上回る面積の住宅を与え、交通問題を解決するた

めに新しい交通路線を開通させて、その利便を図った。同時に幼稚園や学校、専門店、商店街などを設け、公園や緑地も設置して交流やレジャーの場所とした。政府と開発会社は、これらの措置が万博のテーマである「より良い都市、より良い生活」に即したもので、「世博家園」は科学技術や文化、人と自然の調和を体现しているとする。

上海人は、すべての中国人が認めるように、最も頭の回転が速く、最も開放された人々であり、最も国際化された大都市の住民である。万博という国際イベントに対して、上海人もまた、大都市の住民が当然抱くはずの熱情と意思をもっている。交通問題の解決のために、上海では交通の整備に多くの時間を費やして新しい地下鉄路線とトンネルを開通させ、道路の拡張も行った。二〇〇五年以来、上海では八路線の地下鉄が開

通した。多くの上海人は、数年におよぶ建設期間中、交通の渋滞や工事中に発生する騒音と塵埃に黙々と堪えた。また外国人観光客や旅行者をより快適に迎えるために、多くの機関や社区で外国語の訓練が行われた。一部の住宅地区では、退職した老人までもが自発的に簡単な英語の単語や会話を勉強し、上海でトラブルにあった外国人旅行者の助けになろうとした。

上海万博のホストとして、上海人はこのようなイベントが行われる地域に住んでいることに誇りを感じ、視野を広げ、見聞を広めうる今回の機会を逃すまいとした。一枚の小さな入場チケットが、上海人にとって、外に出ることなく世界を周遊できるパスポートとなったのである。

上海万博が開幕して以来、上海人の日常と上海万博の話題はほとんど切っても切れないものとなっ

た。博識で経験も豊富な上海人は、各国のパビリオンに足を運んで風景の紹介や科学技術・文化を見るだけでは満足せず、眼光鋭い参観者の多くがネット上に自分の観点をどんどん掲載した。彼らは期せずして、上海万博の注目点である「ベストシティ実践区」をつかみ取っていた。これからの世界は単純な科学技術の発展だけではなく、観念の改変が極めて重要であり、人が考えるべきは、どのような生活スタイルによつて、如何に自然や伝統と共存していくかであることを、彼らはすでに良く理解していた。だからこそ、デンマークの自転車道やスペインの「空気の樹」の建築、中国寧波市の騰頭館などがそれぞれネット住民の広範な好評を得た。「私は中国各都市の指導者たちがみな万博を見に来ることを望む。公費を使つて来てもかまわない。これらの展示が彼らに先進的な都

市の発展理念を提供し、彼らの行政のもとでくらす一般の人々がより良く過ごせるようになることを望む」と書き込んだ者さえいた。

中国の展示理念とその内容については、賛否両論があった。中国館内の「動く」『清明上河図』は、伝統的な中国絵画とデジタル技術の見事な結合であり、衆目一致の好評を得た。しかし一部の海外生活を経験したインテリからは、近年における文化性、教育性、娯楽性、趣味性、参与性こそが上海万博のキーワードだとの指摘もあった。万博公園は、少しずつ発展して、すでに明確なテーマを持つ公園となっていた。映画館や科学技術館、遊園地など多様な機能をあわせもっており、参観者にとっては、万博はまさに一大お祭り騒ぎの場であった。

この点において、中国の展示理念と万博の要求には些かの距離があった。他館と比較すると、中国

の展示内容は明らかに重苦しかった。周到であるために重苦しく、表現する理念が多すぎるために、複雑すぎて重苦しい。壮大な歴史叙事詩の構成を採用しているために重苦しく、政治化された要求と宣伝化のために重苦しい、のであった。

公園内の広場では常に歌舞音曲が上演された。アフリカ総合館の民族舞踊やマレーシア館の夜間公演、ソウルのベストシティ実践区の熱気ある踊りなど、みな出色の出来であった。上演内容に深刻な意味は何ら含まれていない。見物人に世界の多元文化の自由な快楽をもたらすことに徹し、思う存分楽しみ、騒いでもらうのである。花車のパレードも興奮するイベントであった。若者の一団が、全身をバナナや林檎でいっぱいにして、飛び跳ねたり踊ったりして巡遊する。子供たちが夢中になるだけでなく、大人たちも躍り上がっ

て喜んだ。これに対して中国の公演はといえば、整然として難しすぎるうえに、必ず特定のテーマや観念がある。その細部の違いは人を感嘆させるかもしれないが、俗に言う「玄人はこつを見るが、素人にはにぎわいをみる」であった。

野次馬的市民たちが最も興味をもったのは、パビリオンで上映される映画であった。万博開幕以来、最も人気があり、並ぶ時間の長かったのがサウジアラビア館である。ピーク時には列に並ぶ時間が九時間に達した。多くの参観者は早朝五時か六時には万博会場の外に並び始め、開演と同時にサウジアラビア館前の区域に突進して並び始めるのだが、そうしても五〜六時間は並ばなければならなかった。人気の理由は、館内にあ

る球状のスクリーンであった。「世界最大のスクリーン」といわれ、総面積は一六〇〇平方メートルに達し、バスケットボールの

コート二面分の面積に相当する。しかし何時間並ぼうとも、また参観時間がわずか一五分にすぎないとしても、多くの人が並ぶだけのことはあると思った。また長く並ぶという事態は、携帯式折りたたみ椅子を上海万博の「スター道具」にした。聡明な上海人は、どんな小さな商機も見逃さない。万博行きの地下鉄沿線では、至る所で折りたたみ椅子を売りこむ姿がみられた。

上海人であろうとなかろうと、また中国人も外国人も、上海万博会場に行くだけで、その高揚した楽しい雰囲気、異彩を放つ文化と科学技術に引き寄せられた。しかし、発展する中国において初めて国と都市が中心となつて開催したこの大規模な万博では、様々な問題の発生もまた避けられなかった。列に並ぶ際の混乱、食事の時の混雑、ポイ捨てや列への割り込みなどである。万博公園内の規定

では、車椅子の障害者や高齢者は、一人につき、家族一人を付き添いとしてグリーンルートを通り、並ぶことなくパビリオンへ入館することができるとある。そのため、一族すべてを付き従えて入場しようとする者も現れた。健康な人が障害者を装い、車椅子に乗って入館するということまでおきた。二〇一〇年五月二〇日、「劉辰子」と名乗る上海市民が、上海市委書記の俞正声氏へ一通の手紙を送った。万博公園に出現するマナー違反の参観行為を「苦悩と痛心」と表現し、「市鑑管部門がこのマナー違反に対し有効な抑制措置を執らなければ、この状況は悪化の一途をたどるだろう」として、「上海という都市のイメージを守り、世界の人にわが国民の素質やソフトパワーの向上を示そう」と提案している。俞書記はこの手紙に返答を書き、またメディア上でも公開した。

中国経済の急速な発展に伴って、都市化の進展は加速され、上海のような大都市はますます注目を集めている。すべての大都市と同様に、上海の人口膨張や交通渋滞、環境汚染、物価高騰、文化摩擦等のマイナス面は、「より良い都市、より良い生活」のテーマに対する理解や認識に多かれ少なかれ影響を与えている。しかし上海人はこの「Better City, Better Life」への希望と努力を決して放棄はしない。なぜなら、より良く、より調和した、より人の暮らしに合った都市を建設しなければ、より良い生活を手に入れることはできないことを人々は理解しているからである。

(訳「三好祥子」)